

## 第2回 地方独立行政法人広島県立病院機構評価委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和6年10月31日(木) 17:00~18:10
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号  
広島県庁北館第1会議室/WEB(ハイブリッド形式)
- 3 出席委員 松村委員長、木倉委員(WEB)、平谷委員、松田委員、山本委員
- 4 議 題 中期目標(素案)・中期計画(骨子案)について
- 5 担当部署 広島県健康福祉局医療機能強化推進課  
TEL(082)513-3088(ダイヤルイン)
- 6 会議の内容(議事要旨)

### (1) 中期目標・中期計画(構成案)について

中期目標(素案)・中期計画(骨子案)について説明した。

### (委員からの意見)

#### (全体)

- 5年間の計画であり、それぞれの取組において、具体的に実行する時期は異なると思う。どこで何を実現するのか、マイルストーン、KPI、指標を適切に設定してその達成状況を見ながら、取組を改善していくべきだと考える。ここで設定する指標は、財務的なものだけでなく、病院事業に関する指標も必要である。

#### (1 前文)

- 新法人の最大の特徴は、官学民一体となってオール広島で取り組んできたことであり、法人の理念となる前文にもそのことを記載してほしい。

#### (5 広島県の医療提供体制を支える機能)

- 医師会、看護協会との連携も記載したほうがいいのではないかと。
- 広島県の医療提供体制を支えるという部分に、「医療の均てん化」という表現を書き加えてほしい。また、中期計画は、より具体的なものとなるので「地域の基幹病院との連携」など、取組を明確に表記した方が分かりやすい。

#### (6 高度急性期を中心とした医療機能)

- どういう医療を提供していくべきかは書かれているが、あまり経営の視点が入っていないように思う。今の県立病院でも経営視点をもって取組が進められている。一方で、経営に貢献しないからと、不採算の医療を切り捨てるのは違うという気もする。その辺のバランスも考えて計画を整理してほしい。

(8 幅広い疾患に対応する「こども病院」)

- 「こども病院」という言葉を出すことは大変重要だと思う。一方で、現在県立広島病院で取り組んでいる周産期医療について記載されていないので、追記することを検討してほしい。

(13 医療人材育成機能)

- 新病院で必要な医療を提供していくためには、どの職種が何人必要なかをきちんと積算したうえで、必要な人材を確保してほしい。そうすることで、(1)に掲げている医療機能の提供が可能となるのではないか。
- 「県民に必要な医療」という表現を、「患者中心の医療」としてはどうか。また、人材育成における基本的な考え方の中に、「豊かな人間性と深い知性を有する医療人材」という表現をぜひ盛り込んでいただきたい。
- シミュレーションセンターのような技術を学ぶ仕組みも重要であると思うが、特定看護師や専門看護師などのスペシャリスト等を育成するキャリアサポートセンターが必要であり、新病院の基本計画に記載があった。そういった機能が必要と考えるので、中期計画に盛り込んでいただきたい。
- 全国から医師を集めるには、若い医師を惹きつける魅力ある指導医を集めることが重要なので、臨床研究中核病院や特定機能病院との連携を図り、人材の指導を行っていくことも検討していくべきではないか。
- 無理のない労働時間を設定した上で、どのような人材が何人必要なのか試算・整理して確保していくことが「断らない救急」や他の取り組みにもつながっていくと思われる。そういった観点から記載を検討すべきではないか。

(14 高度急性期医療を担う人材確保・育成)

- 県内の医療人材だけでなく、全国の臨床研究中核病院や特定機能病院など、高度な医療を提供している病院と連携して指導人材を確保してほしい。常駐は難しいかもしれないが、色々な工夫により、全国レベルの方の指導が受けられる形を検討してほしい。

(16 病院経営を担う人材の確保・育成)

- 新病院は全国有数の病院になるので、経営面においても全国から有能な人材を集める必要がある。医療職等については全国公募という記載があるが経営人材においても、そういった取組を検討してはどうか。

(17 広島県の医療提供体制を支える機能)

- 広島県は、広い中山間地域を持ち、北海道について無医地区も多い。地域の中核病院や在宅での生活が成り立たないと、地域医療が維持できない。新病院においても、県内にそういう医療・介護ニーズがあるということを頭に入れて、人材育成を行ってほしい。

(18 周辺の医療機関と連携した地域完結型医療)

- 新法人が地域完結型医療を目指す上で、県立広島病院移転後の南区、JR広島病院が新病院統合後の東区の医療はどうなるのか記載すべきではないか。

(21 医療DXの推進)

- 経営面や患者の利便性向上を掲げているが、医療そのものの高度化、働き方改革、遠隔医療など様々な観点においてDXを推進していくべきである。
- 広島県で進めている広島医療情報ネット（HMネット）を基幹DXシステムとして今後発展させると共に、国が進めるプラットフォーム構想についても具体的な記載が必要ではないか。

(22 積極的な臨床研究の実施)

- 以前から市内の基幹病院と連携し、臨床研究・治験を推進してきた経緯があるので、「市内、都市部の拠点病院と連携し、最新の臨床研究の推進」を打ち出してもらいたい。

(25 県立安芸津病院、26 県立二葉の里病院)

- 地域包括ケアは、単独の病院だけで完成するものではない。地域の医療機関や介護事業所との連携が欠かせないものであり、そういう視点を追記したほうがいいのではないか。

(36 業務運営体制の構築)

- 全国のトップレベルを目指すためには、外部の経営の手法、専門性を持った目を入れた運営も考えるべきではないか。

(38 効果的・効率的な業務運営)

- 全体として事務の効率化にフォーカスしているように見えるため、医療の質の向上など臨床側の視点も必要ではないか。

(40 収入の確保)

- 紹介患者の受入や在院日数の適正化は、患者にいかに適正な医療を提供するかという視点で行うものであり、財務改善のために行うものではない。地域医療機関への訪問活動も同じ。いずれも医療の必要性の観点や、必要な医療を患者に届けるための活動成果という観点からみるべき点だと考える。
- 収入に大きく影響するところではあるが、在院日数の適正化に向けた病床管理を病床稼働率の向上につなげて記載することや患者集患のための積極的な訪問活動と記載することはいかがなものかと思う。

(41 費用の削減)

- 全国トップレベルの拠点を目指すという意気込みの中で、最初から削減という言葉を使うのはいかがなものかと感じる。県立病院は、小児医療、救急、災害など不採算部門も含めて必要な医療を提供する使命がある。そこは県がしっかりと支えながら、その一方で法人は効率的な経営を追求し、全国のノウハウや粋を集めて追求しなければならない。

(42 的確な投資の実施と効果の検証)

- 病院経営においては、医療機器や建物の初期投資より、その後の更新投資の方が経営に大きな影響を与える。ライフサイクルコストを考えた持続可能で計画性を持った医療機器の更新が非常に重要であり、それを踏まえた投資の方針を整理する必要がある。
- 財務はあくまでも事業の結果でしかない。その結果をいかにモニタリングし、検証していくことが重要なので、費用を削減すればいい、売上を上げればいいということではなく、活動そのものが適正かどうかを確認する仕組みを整えるべきである。

(2) 法人理事長等の人材要件

法人理事長等の人材要件について説明した。

(委員からの意見)

- 理事長、副理事長に関しては、専門性のある人材が必要だが、このプロジェクトを進めていくにあたっては、ガバナンスの面からも外部理事を含めた体制を検討するべきではないか。
- 県内だけではなく、全国から人材を得て経営に当たっていくべき。広島大学の協力も得た上で、全国からこの拠点で学びたいという意欲の湧くような指導人材を発掘していただきたい。
- 広島大学出身の医師でも全国的、国際的に活躍されている方もたくさんいらっしゃる。県内にとどまらず広く活躍できる人材がここで学び、また出ていき、戻ってくるということも視野に入れて、そういうことも可能な人材育成を視野に入れた人材確保を図ってもらいたい。また、そういう人材を確保するためには、ある程度の報酬水準を確保しておく必要があると考える。
- トップの人材は、高度、先端的なところから、地域医療、さらには政策医療を考えていかなければならない。加えて、広島県全体という観点も必要である。こういった複合的な問題を統合できる統合力と高い行動力、それをベースにしたコミュニケーション力が非常に必要とされると考える。

7 会議資料名一覧

- 資料 1 評価委員会委員名簿
- 資料 2 第1回評価委員会議事概要
- 資料 3 中期目標（素案）・中期計画（骨子案）
- 資料 4 法人理事長等の人材要件

以上